

保育所等再編計画の進捗状況の報告について

1. 背景

- ◇ 子ども・子育て支援事業計画においては、「南あわじ市保育所のあり方検討委員会からの提言」を受け、保育施設の老朽化や施設ごとの利用児童数の隔たりなどの解消に向けて、施設の民営化や統廃合も視野に入れながら、適正規模の保育環境の整備や保育サービスの向上に努め、すべての子どもが利用できる認定子ども園への移行についても検討を進めていくこととされています。
- ◇ 上記の提言では、施設運営の充実化や効率化を図るための具体策として、「1小学校区に1保育所の設置」を原則とした統廃合の整備計画と、保育サービスの質の向上を図るための民間活力による民営化(民間移管)について検討すると共に、民間移管による市の負担の軽減により生じた財源を、子ども・子育て支援事業の展開に充てることとされています。

2. 保育所等再編整備の進捗状況

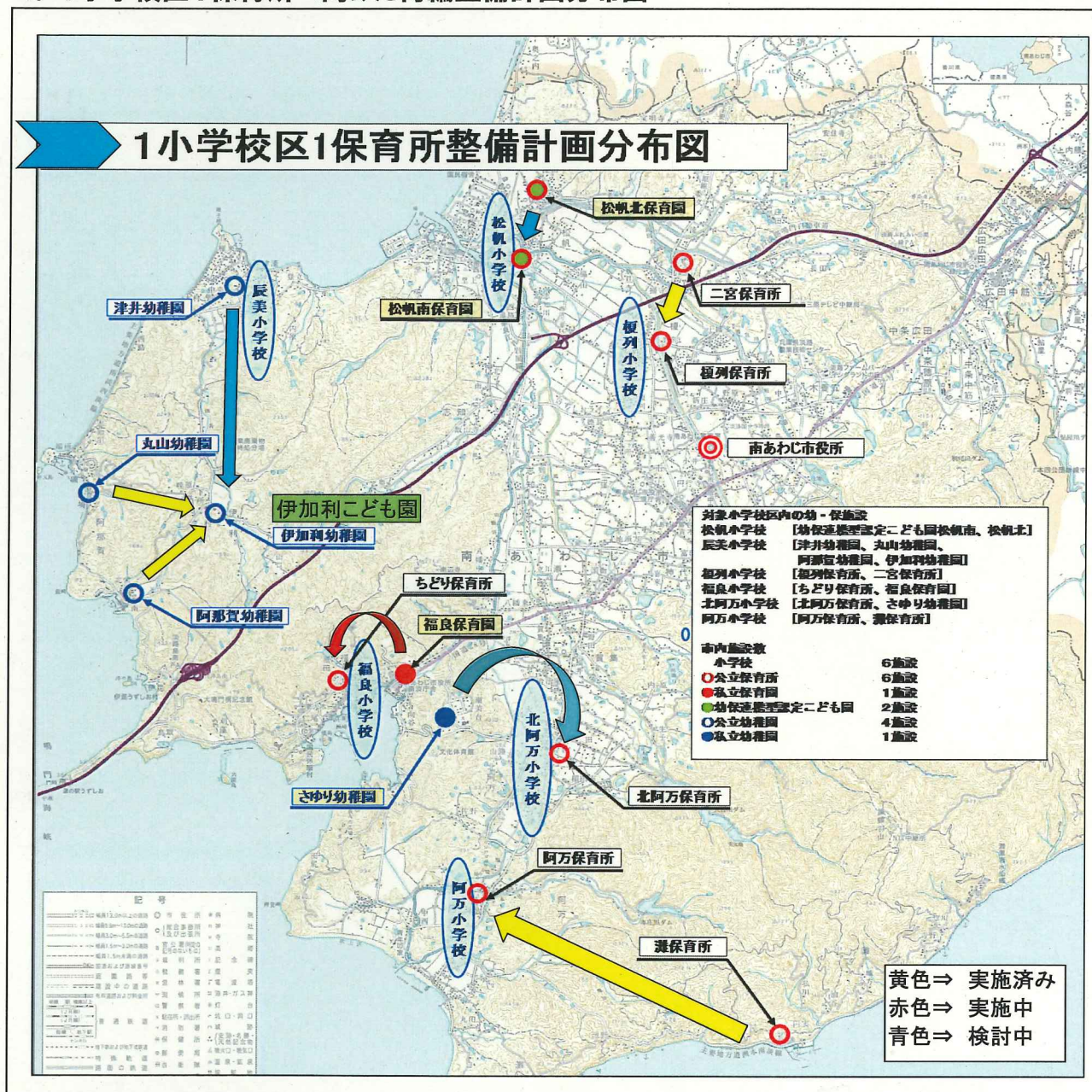
- ◇ 上記の背景を踏まえ、市では次のとおり保育所等の再編整備を推進していきます。

小学校区における再編整備計画		
学校区	園数	再編の方針
①榎列小学校区	2	・ 公立榎列保育所と公立二宮保育所の統合 ⇒ 榎列保育所の増築工事を実施し、平成28年4月に統合済み
②阿万小学校区	2	・ 公立阿万保育所と公立灘保育所の統合 ⇒ 通園バスを期限付きで実施し、平成28年4月に統合済み
③辰美小学校区	4	・ 公立丸山幼稚園、公立伊加利幼稚園、公立阿那賀幼稚園の統合 ⇒ 伊加利幼稚園園舎を改修し、幼保連携型認定子ども園として、平成28年4月に統合、開園済み。
④福良小学校区	2	・ 公立ちどり保育所と私立福良保育園を統合することとし、法人運営による新たな認定子ども園として平成30年4月に開設する。【法人移管】
⑤北阿万小学校区	2	・ 公立北阿万保育所と私立さゆり幼稚園を統合することとし、法人運営による新たな認定子ども園として開設する。(時期未定)【移転・建替を伴う法人移管】

3. 再編整備の目的・効果・課題

学校区	結果・効果	詳細
①榎列小学校区	①-a 1校区1園化	・ 就学期への円滑な移行を図る。
	①-b 適正規模保育	・ 集団保育の確保
	①-c 財源活用	・ 子育て学習・支援センターを旧二宮保育所を移転(H28.9)
②阿万小学校区	②-a 1校区1園化	・ 就学期への円滑な移行を図る。
	②-b 適正規模保育	・ 集団保育の確保
③辰美小学校区	②-a 適正規模保育	・ 集団保育の確保、就学期への円滑な移行。
	②-b 1校区2園	・ 校区内に2園が存在し、1園化への検討が課題。
④福良小学校区	②-a 1校区1園化	・ 就学期への円滑な移行を図る。
	②-b 適正規模保育	・ 集団保育の確保
	②-c 災害対策	・ 地震や津波からの被害を回避し、安全安心な保育環境の提供
⑤北阿万小学校区	③-a 1校区1園化	・ 就学期への円滑な移行を図る。
	③-b 適正規模保育	・ 集団保育の確保
	③-c 園舎の移転	・ より充実した保育環境の提供体制の確保

4. 1小学校区1保育所へ向けた再編整備計画分布図



5. 再編整備後の定員・入所児童数と量の見込・確保方策について (※児童数は、平成28年7月末現在)

施設名	定員(統合前合計⇒後)	入所児童数	量の見込みと確保方策についての検証及び課題
榎列保育所	150(90+60)⇒120	122	提供体制の確保ができています。
阿万保育所	120(90+30)⇒90	86	提供体制の確保ができています。施設の老朽化による改修が必要。
伊加利子ども園	315(105×3)⇒40	26	市内幼稚園の1号認定の利用定員数が過剰であり、子ども・子育て支援事業計画の量の見込や確保方策と大きく乖離しており、見直しが必要。
(仮)福良子ども園	140(90+50)⇒120	126	◆平成28年度における1号認定定員率:387人 ◆平成28年度における1号認定の量の見込:40人
(仮)北阿万子ども園	120(90+30)⇒90	75	◆確保方策の過不足:347人の供給過剰

※統廃合により保育所等施設や利用定員は減少しましたが、保育を必要とする児童への提供体制は確保できる見込みです。

6. 再編整備計画の市上位計画への反映

- ◇ 「南あわじ市まち・ひと・しごと創生総合戦略」(平成28年3月策定)において、基本目標に「子育てしやすいまち」を掲げ、「安心して子どもを預けられる環境整備と保育サービスの向上」を施策目標としており、平成31年度を目標に、現在ある公立保育所数を9か所に減らし、統廃合や民営化を推進していく計画としています。